

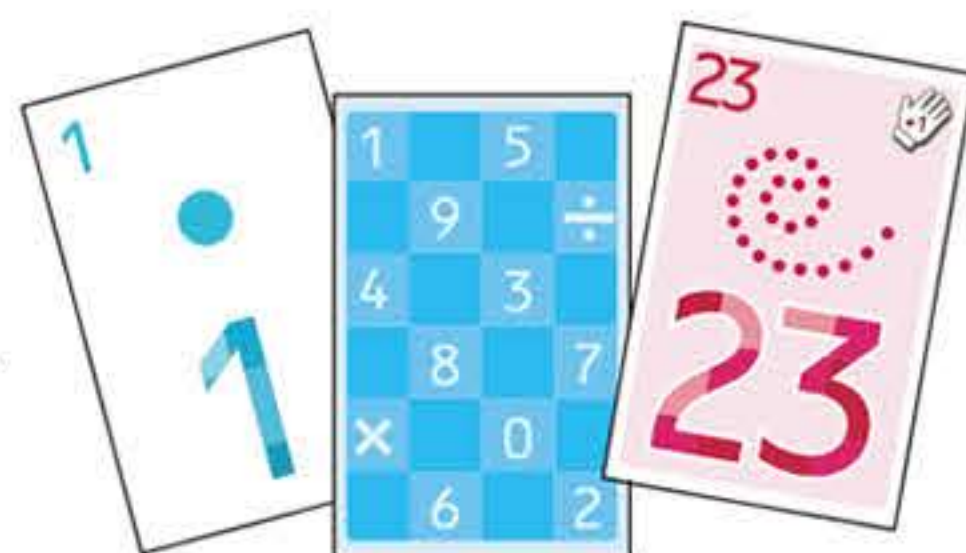
ナンバーカードゲーム

ファクター

2~5人用

プレイ時間およそ15分

対象年齢8歳以上



ある数が、「別の数」でわり切れるとき、この「別の数」を「約数」(または「因数」「因子」とよびます。例えば、「6」という数は、1でわると6、2でわると3、3でわると2、6でわると1、というように、1、2、3、6という4種類の数でわりきれます。したがって、1、2、3、6は、6の「約数」というわけです。

逆に考えると、1、2、3、6は、それぞれ何倍かすると、6になるということがわかりますね。このように、ある数を何倍かした数を「倍数」といいます。6は、1、2、3、6の「倍数」ということになります。

ナンバーカードゲーム「ファクター」は、このような数と数との関係を考えながらプレイするゲームです。「あの数はこの数でわり切れるかな?」「これは、あの数の倍数?」といったことを、すばやく判断して、手持ちの全てのカードを一番早く出し終えた人が勝ちです。

「計算が大変で、ちょっと難しそう」と思うかもしれませんが、でも大丈夫! 少なればすぐに楽しめる、とてもシンプルなゲームです。そして、ゲームを楽しむうちに、自然と算数力もアップしているはずですよ!

入っているもの

数字カード 1~24まで 合計80枚 (1、4、6、8~24 各3枚 / 2、3、5、7 各5枚)



赤いカードは「素数」です。素数のカードは特殊能力を持っています。

素数

素数とは、1と自分自身以外ではわりきれない数のことです。素数は無限に存在することがわかっていますが、どのような規則で現れるのかは、まだ解明されていません。そして、素数はいろいろな不思議な性質を持っていて、暗号技術にも使われています。なお、素数は1より大きい数でなければならないと決められているので、1は素数ではありません。

ゲームの準備

- 1 全てのカードをよく混ぜてから、プレイヤー全員に7枚ずつ、ふせて配ります。配られたカードは自分の**手札**として、他の人から見えないようにします。
- 2 残ったカードは、ふせたまま重ねて置いて、**山札**にします。
- 3 山札の一番上のカードをめくり、プレイヤー全員から見える場所に置きます。これが**場札**になります。
- 4 じゃんけんなどで、プレイヤーの順番を決めます。最初は、右回りにゲームを進めます。

ゲームの進め方

1 アクション(手番)

最初のプレイヤーから順番に、ゲームを行います。

プレイヤーは自分の順番のときに、次のA,Bどちらかのアクションを行います。

A 手札を出す

▶ **場札の数の約数** (場札の数をわり切れる数)のカード

▶ **場札の数の倍数** (場札の数を何倍かした数)のカード

を、持っていれば、そのカードを出すことができます。

一度に出せるカードは一種類だけですが、同じ数のカードは、まとめて何枚でも出すことができます。

また、素数のカード(赤色のカード)は、3枚を一組として重ねて出すことができます。素数であれば組み合わせは自由です。

出されたカードのうち、一番上のカードが次の場札になります。

B 山札からカードを1枚ひく

出せるカードを持っていないときや、持っても出たくないときは、山札の一番上のカードを1枚ひいて、自分の手札に加えます。


ひいたカードがAの条件を満たしていれば、そのまま出すこともできます。

2 素数の特殊能力

出されたカードが素数だった場合(赤いカードだった場合)、素数のカードが持っている「特殊能力」が有効になります。重ねて出したときは、一番上のカードの特殊能力だけが有効です。

特殊能力


*特殊能力は少し難しいルールです。ゲームになれるまでは、全ての特殊能力を使わずにいくつかを選んで遊んでも構いません。ゲームの前に、どのカードの特殊能力を使うか決めてからプレイしましょう。

2 +  2と3は同じ特殊能力を持っています。2または3のカードが出されたら、次の順番のプレイヤーは、山札からカードを2枚ひきます。

5  順番を逆回りにします。

7  次の順番のプレイヤーをとばし、次の次のプレイヤーの順番になります。

11  次にアクションをするプレイヤーを選べます。自分を選んで構いません。

13  山札からカードを1枚ひき、手札に加え、手札の中から1枚選んで新しい場札にします。このとき出したカードが素数であっても、その特殊能力は有効にはなりません。



17 山札からカードを1枚めくり、新しい場札にします。このとき、新しい場札のカードが素数であれば、その特殊能力が有効になります。



19 素数カード2枚分になります。つまり、19のカードがあれば、素数カードが2枚でもカードを出すことができます。そのとき、19のカードは一番上でなくてもこの特殊能力は有効です。



23 もう一度自分の順番になります。

3 場札が素数のときの特別ルール

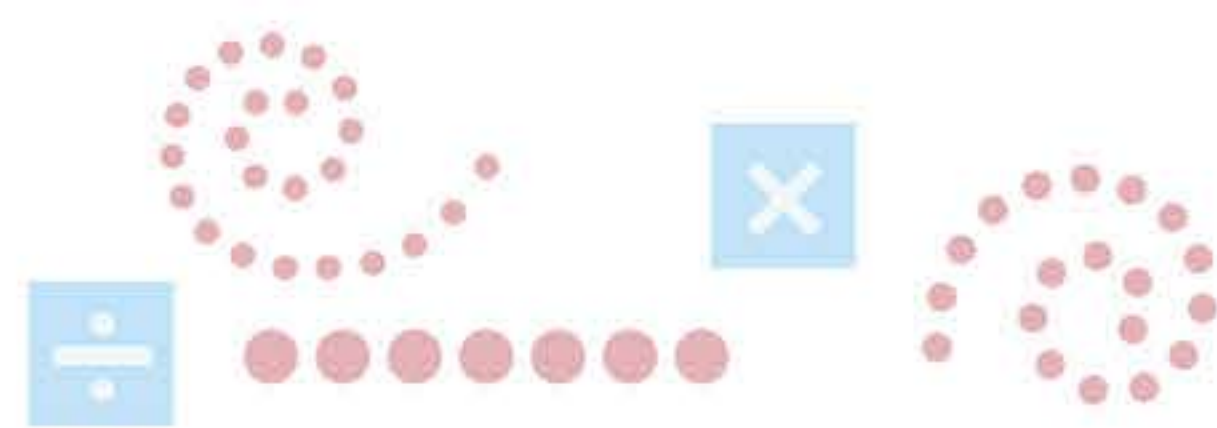
場札が素数のとき、アクションを行うプレイヤーが山札からひいたカードが素数以外の数であれば、そのカードを出すことができます。その時、同じ数のカードが手札にあれば、それもまとめて出すことができます。また、カードを出したくない場合は、出さなくてもかまいません。

4 勝利条件

一番はじめに、手札が無くなったプレイヤーが勝ちです。最後に出すカードは、どの数字でもかまいません。(上がり禁止のカードはありません。)

5 その他

ゲームの途中で山札が無くなった場合は、場札を残して、それ以外のカードをよく混ぜて重ね、新しい山札にしてください。



「ファクター」は工夫次第で、いろいろな遊び方ができるゲームです。

アレンジを加えてオリジナルの楽しみ方を見つけ、数や計算に親しみ

みましょう。